

宮城県文化財保存活用大綱の概要

大綱策定の背景と目的

文化財は、私たちの先祖が大切に守り伝えてきたものであり、私たちが子孫に引き継いでいかなければならないもの。



文化財を「地域の個性」として適切に理解し、活用し、継承することは、新しい時代を創造することにもつながる。

しかし...

人口減少や少子高齢化により、一部の指定等文化財において継承基盤の脆弱化が認められ、さらには未指定の文化財や文化環境は失われつつあり、地域の歴史環境は痩せ細りをみせているところもある。

よって...

これまでの文化財の保存と活用の取り組みのなかでの課題、東日本大震災等による文化財を取り巻く状況の変化等を踏まえ、中長期的観点からの文化財保護方針を策定。

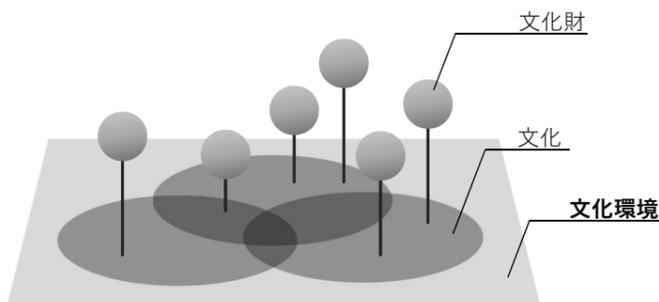
本大綱で対象とするもの

◆文化財

文化財保護法で規定する文化財のほか、宮城県にとって歴史的価値を有し、かつ次世代に継承すべきものも同等に取り扱う。

◆文化環境

文化財単体のみならず、地域が文化財と有機的な関係を築いている<場>を「文化環境」と定義。文化財が周辺の環境・文化とともに成り立っていること強く訴える。



文化環境の概念図

文化財の保存・活用に関する現状と課題

「文化財保護制度と指定等文化財」「文化財の保存・活用体制」「文化財の調査」「文化財の管理・防災」「文化財の保存・継承」「文化財の活用・普及啓発」6つの観点で整理

主な課題

① 人材の不足、体制の未整備

すべての観点において確認される課題。本格的な人口減少時代に備え、地域社会のなかで文化財をどのような体制にて守り続けるかを検討する必要がある。

② 文化財に対する理解不足

地域への誇りと愛着を育む上で重要な役割を担っているはずの文化財が、地域住民の間で十分に認知・共有されていない。

③ 社会・経済活動からの放置

市民生活や社会・経済活動から文化財が置き去りにされており、持続可能な保存活用が見込めない。ゆえに予算も確保できない。

+α 平時の延長としての防災

日常的な体制整備・理解促進・保存と活用が行われてこそ、非常時の対応が可能となることが徹底されていない。

基本理念

持続的な文化環境の維持と創出 — 知って、活かして、伝える文化財 —

文化財保存活用推進の視点

① 人口減少社会における文化財

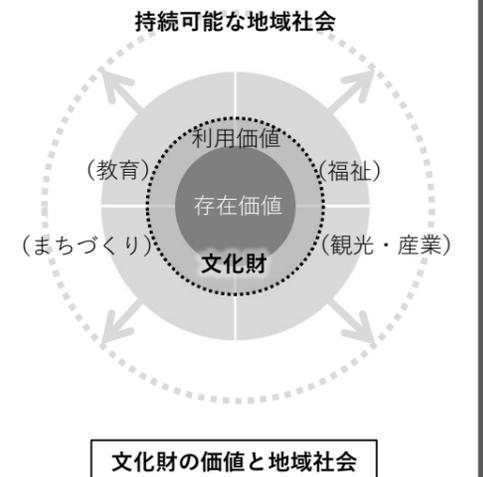
地域の価値観や生活スタイルに寄り添った文化財の保存・活用の積み上げが、人口減少社会に対応する力になる。

② 文化財の「存在価値」と「利用価値」

これまで守ってきた文化財の普遍的な価値（存在価値）だけでなく、今後は多様な活用に資する「利用価値」も広義の価値と認識し、地域社会とのつながりを保っていく必要がある。

③ 文化財と関連分野との境域にある可能性

特に「利用価値」は、関連分野との境域に存在する。そこにある職能や人材を意識的に発掘するため、関係機関等との緊密な連携強化が重要である。



基本方針と施策展開

方針1 文化財を守り育む土台をつくる

《地域で支える仕組みづくり》《文化財専門職員の継続的な確保と育成》《適材適所の人材支援》《関係機関との連携強化》《社会変化などに応じた条例改正》《市町村地域計画などの策定促進》《文化財関連計画の策定促進及び策定への参画》

方針2 文化財を適切に理解する

《多様な視点を踏まえた文化財調査の実施》《文化財の網羅的な調査・把握》《個別文化財の調査の充実》《的確な指定等の推進》《各文化財保存活用計画などの策定促進》《文化財の継続的な状況把握》《関連部局との連携による文化財の面的な把握》

方針3 文化財を循環型社会システムに組み込む

《社会活動・生涯学習と連動した保存継承機会の創出》《教育的意義を明確にした学校教育との連携》《保存・活用にかかる資金の確保》《行政所有文化財及び収蔵展示施設の模範的な保存・活用》《普及・活用手法の創出》《適切な修理・管理・保全の促進とそれら技術・技能の向上》《周辺環境を含めた文化継承プログラムの構築》

方針4 文化財の災害対応力を高める

《リスクの把握》《防災・減災の方針整備と体制整備》《防災意識向上に向けたソフト整備》《防災設備をはじめとする予防策の充実》《初動体制の整備》《災害遺産の発掘》

基本理念の実現！